

大東文化大学 東洋研究所所報

2013.6 No.59

目次

時憲書三種……………田中 良明 …… 1	2013年度 東洋研究所主催公開講座…………… 9
福田・松本両教授に名誉教授称号授与…………… 2	人事・名簿…………… 10
2013年度 東洋研究所共同研究課題…………… 3	2012年度 東洋研究所会議報告…………… 11
〔国際交流講演会〕与謝野晶子と私	2012年度発行『東洋研究』…………… 11
大東文化大学名誉教授 ジャーニン・バイチマン… 5	新刊案内…………… 12
2012年度 東洋研究所共同研究班活動報告…………… 7	

時憲書三種

東洋研究所専任講師 田中 良明

手元に時憲書が数冊ある。大別すると、清朝・民国・満洲国の3種となる。

時憲書は、元の名を時憲暦といい、明末清初にイエズス会士等によって当時の欧州最高峰の天文学を用いて作られた太陰太陽暦であり、中国の他の暦法同様に天体暦でもある。明末に雛形が完成していたが、改暦に暇なく、清の順治初年に頒布されることとなる。

しかし、一般に時憲書と呼ばれるのは、その暦法を用いて作られた暦（カレンダー）であり、そこに記された内容は、所謂「迷信」、本邦の『御堂関白記』等に用いられた暦書や、江戸の伊勢暦等と同じく暦注であって、日扱ひの古い書となっている。

清末に至ると、時勢によって太陽暦への改暦を求める声が上がっていたようだが、またしても改暦に暇なく、中国で太陽暦が用いられるのは中華民国の成立以降となり、政府や国民党から「中華民国暦書」「国民暦」等が発行されている。しかし、太陽暦の使用は公式の場に限られたようで、民衆は旧暦に従い行動し、旧来の暦注が希求された。これは本邦の明治改暦後の様相とほぼ同じ事であり、また、満洲建国後にも当てはまる。そこで民国に入っても、太陽暦を並記するものの、旧暦を主として暦注を載せた「時憲書」が各地で民間から出版され続けた。

一方、満洲国時憲書は、旧暦と暦注を並記しつつも、太陽暦を主としている。これは、政府が太陽暦普及を目的として公刊したものであり、その目的達成のために敢えて暦注を載せたことを原因としている。満洲国時憲書の制定事業には、多分に洩れず邦人が深く関わっており、暦算から暦注に至るまで、邦人の手に係っている。

当時は、大東亜新秩序の一環として、新暦の制

定が求められており、幾人もの天文学者が説を残しているが、一貫して七曜制さえ根拠なしと否定するものであり、満洲時憲書に携わった神田清氏も、暦注の撤回と旧暦の廃止を訴えている（『満洲國時憲書の制定と其普及』大政翼賛会興亜局、1942-12）。しかしこれも実施されるに暇なかった。

現在本邦で用いられる暦は、明治改暦以来のものである。ここ60年ほどは、国立天文台（旧東京天文台）の「暦要項」が、前年の2月初めの官報に掲載されることによって、（特に春分の日・秋分の日）の両祝日が）正式に決定されている。当然そこに暦注の類が記されることはないが、年末年始の書肆に平積みされる民間出版の暦書に、暦注が充填されていることを見れば、本邦でも依然としてこの種の「迷信」が希求され、受容されていることは説明を要すまい。

本校の学生手帳のスケジュール覧にも、六曜が記されている。これは早くとも19世紀初頭に成立した比較的新しい迷信なのだが、今や冠婚葬祭には無視できぬものであり、学生にも必要な「一般常識」なのだろう。何せそうした迷信に囚われぬはずの宗派の葬儀でさえ、斎場と参列者が「友引なので」と言って日程をずらされるご時世である。「迷信」によって日時を選択し、それによって行動に一定の規範が設けられるというのは、程度の差こそあれ、古人と文化を同じくするところであろう。



6月18日(火)、本年3月に停年退職された本研究所専任研究員福田敏昭・松本照敬両教授に名誉教授の称号が授与されました。今回は6名に授与され授与式当日は学長・副学長・学務局長と4名の受賞者、受賞者紹介のため受賞者所属の学部長・研究所所長が参列しました。

当研究所福田俊昭名誉教授は、本学文学部中国文学科卒業・大学院文学研究科修了。博士(中国学)を取得されています。本学の文学部中国文学科専任助手・文学部教養課程講師・同助教授・同教授等を歴任、1981年より当研究所兼任研究員・管理委員を経て1999年より当研究所教授に移籍、2003年から6年間所長を務められました。その間ストックホルム大学で長期海外研修をされ、シルクロード関係の重要資料を発見され、帰国後は他大学・他学部・大学院で学生の指導にあたられました。研究所では『藝文類聚』の編纂の主任を務められ、今後は兼任研究員として編纂事業に協力頂くとともに、『東洋研究』の論文審査委員としてご活躍頂きます。



平成25年6月18日(火)撮影
名誉教授称号記授与式において太田政男学長から称号を授与される福田俊昭名誉教授



平成21年11月12日(木)撮影
東洋研究所主催公開講座「弘法大師 空海の生涯と思想」
において講演される松本照敬名誉教授

松本照敬名誉教授は、早稲田大学大一文学部哲学科卒業・東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程博士課程修了後、文学博士を取得されています。東京大学文学部助手・茨城大学・東方学院非常勤講師・大正大学短期大学部助教授・教授を経て1983年東洋研究所助教授として就任されました。その間71年にはオランダ政府給費留学生として、77年研究員としてライデン大学に留学されています。本大学国際関係学部新設に伴い国際文化学科教授に移籍、大正大学・筑波大学・東京大学・東京芸術大学等でも非常勤講師として教鞭をとってこられました。1992年再度東洋研究所教授に移籍、1997年から6年間所長を務められました。1980年には日本印度学仏教学会学会賞・1994年鈴木学術財団特別賞・2004年中村元東方学術賞を受賞されています。本研究所の公開講座やオープンカレッジにおいて分かりやすい仏教の話は多くのファンを集めておられ、今後も兼任研究員として、『東洋研究』の論文審査委員としてご活躍頂きます。

(東洋研究所所長)

2013 年度 東洋研究所共同研究課題

1 班	東洋における異文化の本質的相違性に関する研究
	期間 2013～2015 年度 (継続)
	メンバー (10 名) 團山田準〔主任〕 岡崎邦彦・小林春樹・田中良明 田中昭雄・田辺清・井上貴子 田片岡弘次・松本照敬・福田俊昭
概要	今日の複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に認め合うことの必要性を痛感するであろう。地球という有限な環境の中で、多くの生命が共存する社会の在り方が模索されねばならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の創造を視野において、東洋における異文化及び東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が認識されれば、相互理解への途も開けてくるであろう。21 世紀における新しい社会の創造を探求して先駆的な研究を進めていきたい。
2 班	20 世紀・21 世紀における日中関係と中国の対外抵抗・対内改革・世界大同
	期間 2012～2014 年度 (研究期間中)
	メンバー (19 名) 團岡崎邦彦〔主任〕 田村井信幸・葛目知秀・高安雄一・内田知行・柴田善雅・鹿錫俊・齊藤哲郎・篠永宣孝 田伊藤一彦・上野英詞・植松希久磨・嶋垂弥子・由川稔・鎖屋一 田安藤正士・小島麗逸・近藤邦康・中島宏
概要	アヘン戦争以後半植民地に陥った中国は、1895 年日清戦争に敗れて帝国主義列強に分割される危機に直面した。救亡は課題を「救亡(国家を滅亡から救う)ー民主(民を君主の奴隷から国家の主人に変える)」と把握した。外国の侵略に抵抗し、国内の君主専制を改良し、革命し、国家間・階級間の圧迫・闘争がない「世界大同」をめざす、という運動が次々に起こった。その一つである中国共産党の運動をもこの新潮流の中の一つとしてとらえて、過去と現在を分析し、未来を予見する。10 年の長期研究計画 (2012～2021 年) として「中国共産党 100 年史」研究を資料の整理を中心に進めたい。大東文化大学中国近現代史研究の拠り所として、学内はもちろん、学外に対しても公開して研究、協力していきたい。
3 班	日中文学の比較文学的研究ー「藝文類聚」を中心にしてー
	期間 2011～2013 年度 (研究期間中)
	メンバー (9 名) 田中林史朗〔主任〕 田中良明 田日吉盛幸・浜口俊裕・藏中しのぶ 田福田俊昭・成田守・芦川敏彦・関清孝
概要	本邦に伝来する最古の現存類書の「藝文類聚」は我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考える。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。
4 班	西欧植民地主義再考
	期間 2011～2013 年度 (研究期間中)
	メンバー (5 名) 團山田準〔主任〕 田滝口明子 田岡倉登志・齋藤俊輔 田生田滋
概要	西欧植民地主義の成立、発展、機能、思想的背景については数多くの研究がなされて来た。これら西欧植民地主義の歴史研究は、ヨーロッパと新大陸つまり大西洋世界、ヨーロッパと旧大陸つまりインド洋と太平洋世界を対象とし、それとは別に植民地宗主国の歴史研究が存在した。これら大西洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からはインド洋と太平洋世界における植民地主義が見えてこない。逆にインド洋と太平洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からは、大西洋世界の植民地主義は見えてこない。 そこでこの研究班では、大西洋世界、植民地宗主国、インド洋と太平洋世界の 3 大研究対象を比較統合し、西欧植民地主義を再考することを目的に、いくつかの個別的研究を分担して研究しようとする物である。
5 班	唐・李鳳撰「天文要録」の研究 (訳注作業を中心として)
	期間 2013～2015 年度 (継続)
	メンバー (12 名) 團小林春樹〔主任〕・田中良明 田渡邊義浩・小坂眞二・小林龍彦・近藤正則・中村聡・中村士・細井浩志・山下克明 田進藤英幸・濱久雄
概要	「『天文要録』の考察 [一]」(2011 年 3 月) として、その第 1 冊 (巻一) の、訳注と現代語訳を中心とした研究成果を上梓した前田尊経閣文庫蔵「天文要録」(唐・李鳳撰) に関する研究を継続する。具体的には、同書第 2 冊、第 3 冊 (巻四、巻五) について同様の作業を継続し、完全原稿の完成を期する。

6班	茶の湯と座の文芸
	<p>期間 2011～2013年度(研究期間中)</p> <p>メンバー(4名) 田中蔵中しのぶ〔主任〕 相田満・安保博史・矢ヶ崎善太郎</p> <p>概要 平成16年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)「茶の湯と座の文芸の本質の研究—『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果および、2008～2011年度の東洋研究所研究班「茶の湯と座の文芸」の成果として刊行した『茶譜 卷一注釈』『茶譜 卷二注釈』『茶譜 卷三注釈』『茶譜 卷四注釈』を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間の成立とされる茶道百科事典『茶譜』全十八巻の注釈研究を継続しておこなう。研究分担者は、科研費研究から継続して参加する蔵中しのぶ(日本文学・上代中古文学)、福田俊昭(中国文学)、相田満(人文情報学・中古中世文学)に加えて、安保博史(日本文学・近世文学) 矢ヶ崎善太郎(建築史・茶室建築)を新たに迎え、茶道文献を対象とした学際研究をめざす。</p>
7班	『晋書』の研究
	<p>期間 2013～2015年度(継続)</p> <p>メンバー(9名) 小林春樹〔主任〕 高橋康浩 渡邊義浩・池田雅典・石井仁・小林聡・仙石知子・堀池信夫・町田隆吉</p> <p>概要 現在、二十四史に含まれる『晋書』は唐代の編纂にかかるもので、史料的に偏向が多いと言われている。唐修『晋書』の原史料となった十八家『晋書』は、断片的ではあるが、類書に散見する。従来から言われてきたような偏向が、果たして『晋書』に存在するの否か、という問題を『晋書辭注』および『十八家晋書』を利用した校補本『晋書』の作成により解明していくことが、本研究の目的である。今期の研究では、2012年度に出版した『晋書』帝紀1を承けて『晋書』帝紀2を出版する。</p>
8班	イラン文化圏における伝統と変容の研究—フィールド調査資料の再考—
	<p>期間 2012～2014年度(研究期間中)</p> <p>メンバー(8名) 原隆一〔主任〕 山田準 須田俊彦 鈴木珠里・南里浩子・林裕・吉田雄介・斉藤正道</p> <p>概要 ここでいう「イラン文化圏」とは、現在のイラン国(イラン・イスラーム共和国)に限定するものではない。それはインド文化圏、中央アジア・トルコ文化圏、アラブ文化圏など隣接する文化圏との歴史的交流のなかで育まれた広域の文化圏をさしている。同様に、「文化、文化圏」とは人間の生活舞台である自然生態環境、生業を基盤とした経済活動、その上に展開する社会や文化を含む総体を含んでいる。本研究では、これまでの日本人を中心とする現地フィールド調査で収集したイラン文化圏における基層文化とその変遷に関する一次資料の整理と読みかえし作業をとおして、自らの新しい研究手法を確立することにある。その際、3年間の研究成果はデジタル化による体系的整理と公表をめざす。</p>
9班	岡倉天心(覚三) にとっての「伝統と近代」
	<p>期間 2012～2014年度(研究期間中)</p> <p>メンバー(8名) 田辺清〔主任〕・宮瀧交二・篠永宣孝 池田久代・岡倉登志・岡本佳子・川島一穂・依田徹</p> <p>概要 岡倉天心(1862-1913)は、幼時より漢籍とヘボン塾で英語を学び、東京開成学校に入学、1877年東京大学で政治学、理財学ならびにフェノロサについて哲学を学び、卒業後、フェノロサの日本美術研究に協力し、古美術の研究と新しい日本画の樹立を旨とした。86年文部省の美術取調委員としてフェノロサとアメリカ経由でヨーロッパを巡り翌年帰国、東京美術学校の創設、90年校長に就任した。この間美術専門誌『国華』を創刊、日本絵画協会主宰、帝室技芸員選抜委員、古社寺保存会委員に任ぜられ、98年校長を辞職、橋本雅邦、横山大観、菱田春草、下村観山らと日本美術院を創設、新しい日本画を旨として美術運動をおこした。1904年(明治37)大観、春草を伴い渡米し、ボストン美術館の仕事にあたり、05年同館の東洋部長となり、06年ニューヨークで『茶の本』を出版、その年の末に日本美術院を茨城県五浦へ移し、大観、春草、観山らと住み、07年文部省美術審査委員会委員となり、08年国画玉成会を結成、10年東京帝国大学で「泰東巧芸史」を講義した。翌年欧米旅行を行い、ハーバード大学からマスター・オブ・アーツの学位を受けた。続いて12年インド、ヨーロッパを経て渡米し、13年(大正2)病を得て帰国、療養に努めたが、同年9月2日新潟県赤倉山荘で没した。英文著書『東洋の理想』(1903)、『日本の覚醒(かくせい)』(1904)、『茶の本』(1906)などは外国人はもちろん、翻訳されて広く日本人にも影響を与えた。岡倉天心研究はまだまだ研究されなければならない点があるが、本研究部会においては、岡倉天心の「伝統と近代」に着目し幅広い研究を進めて行きたい。</p>

〔国際交流講演会〕 与謝野晶子と私

大東文化大学名誉教授 ジャニーン・バイチマン
2013.2.16 (土) 15:00 ~ 於：大東文化会館 K-0401 研修室

日本ではとても有名な与謝野晶子は海外では、特に欧米では、一般の人にはほとんど知られていません。私は1980年代から晶子研究をやってきて、現在その評伝の第二巻を執筆中です。晶子の研究を始める前に、正岡子規を研究していて、私の晶子研究はその子規研究からはじまりました。それをまず説明したいと思います。

私の大学院はアメリカのコロンビア大学でしたが、指導教授だったドナルド・キーン先生の勧めで、修士課程と博士課程の両方で正岡子規を研究しました。正岡子規は35歳で結核で若死にしましたが、その最後の3年ぐらいは病床生活でした。私にとって、一番感動的な作品は、その病床に苦しみながら、自然の美しさをみている時の作品です。子規は、この世に深くあこがれていたことをあらわに表現しませんが、おのずからその気持が響いてきます。

こういう風に子規を読めるようになって、子規の特徴的な組み合わせ～一種の遠慮と奇妙に強い表現力～に慣れてきて、それは詩歌のあるべきスタイルであると思うようになってきました。

その時まで、与謝野晶子の作品はキーン先生の日本文学選集に入った数編の歌と詩しか知りませんでした。しかし、博士論文を書くことになりました時、子規と同じ時代の詩人についてもう少し勉強しないといけないと思って、晶子の作品を読み始めました。

最初は子規に比べれば、晶子の短歌がかなり必要以上にあらわに感情を表現しているように感じて、反発しました。また、子規がなるべく外の世界をそのままに映すのに対して、晶子の歌は世界



をそのままみるのではなく、いつも自分の一部分としてみるので、あまり好きになれませんでした。それは1970年ごろでした。

しかし、1980年代になって、欧米で、また日本で、女性学が盛んになりはじめました。その女性学から刺激を受けて、自分も女性詩人を勉強したいと思うようになりました。当時高く評価された近代詩人の中で、晶子は唯一の女性でしたので、晶子の作品をまた読み始めました。

晶子の作品を勉強し始めると、不思議に思うことがありました。

それは、彼女が64歳まで生き、20以上の詩歌集を発表しているのに、当時の定説によれば初期の恋愛歌、特に「みだれ髪」しか評価され得なかったということでした。女性学に刺激されて、その定説は間違っているかもしれないと思って、晶子の中期と晩年の作品を調べ始めました。結論からいうと、その通りでした。たしかに初期は恋が主な主題でしたが、中期・晩年は、それに加えて、出産、社会、詩を書くこと自体についても晶子は膨大な作品——短歌も詩も——を書いています。ちょうどそのころ、大岡信が雑誌「花神」を始めましたが、



そこになにかを書くようにすすめて下さいましたので、そこに「文学における性差別——与謝野晶子の評価をめぐって」を書きました。1970年代の後半から、日本人の批評家の数人による晶子の中年・晩年の作品についての著書と論文が発表されはじめましたので、1980年代から、晶子についての評価が変わってきました。また、彼女の業績は短歌だけでなく、詩にも、エッセイにも、児童文学にもあるという見解が、今では定説の一部になっています。ただ、まだ一つだけ問題が残ると思います。それは、晶子の作品がすべて、伝記として読まれていることです。

実は与謝野晶子は幻想的な詩人であると思います。子規のようにこの世をそのままに見ることもできますし、また出産、結婚、大自然について素晴らしい作品もあります。ですから、一面では現実を描く詩人であり、その作品を理解するため、その伝記の記述が助けになります。



しかし、半面、内部世界にある映像、感情、思想を種にする歌と詩が多くあります。晶子は内部的な想像の世界を外部的な現実の世界と同じ位大事にしました。

子規の美と苦しみ、生と死を均等に表す詩歌ほど素晴らしいと思う晶子の歌は何かというと、晶子の幻想の歌、特にその無限の自由を表す歌です。

ようやくいえば、私は正岡子規のドライ、さっぱりしたスタイルからフェミニズムを経由して与謝野晶子にたどり着きました。そして、ここでは、豊かな、幻想的な世界を見つけました。

子規と晶子とは、よく反対のように見られています。子規は現実主義、晶子はロマン主義です。子規の歌の構成が均等的で、晶子の歌の構成はわざとバランスを崩している。子規が表に気持ちを表現しないのに晶子は表に出し、子規が比喻をほとんど使わないのに、晶子は頻繁に使う、などです。しかし、子規が生と死、美と苦しみ、病と健康の間の境目から歌を作ったように、晶子も現実の世界と幻想の世界をまたがっていました。二人とも非常に大きい、幅広い頭脳の持ち主だったと思います。

(講演開催時 大東文化大学文学部

日本文学科教授)

■1班 = 東洋における異文化の本質的相違性に関する研究

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

①日 時：2012年6月21日13時～14時 6名

発表者：松本照敬

テーマ：日本仏教の年中行事

②日 時：2013年2月21日13時～14時 6名

発表者：松本照敬

テーマ：仏教がもてたもの

■2班 = 歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会

【研究会】

①日 時：2012年2月6日(水)15時～17時

場 所：大東文化会館 4階 401室

参加者：岡田宏二・村井信幸・由川稔・岡崎邦彦 4名

発表者：由川稔

テーマ：モンゴルとカザフスタンの対日経済関係

■3班 = 20世紀・21世紀における日中関係と中国の対外抵抗・対内改革・世界大同

【研究会】

場 所：大東文化会館①403②401③402④401 研修室

①日 時：2012年4月28日(土)14時～16時

参加者：12名

発表者：岡崎邦彦

テーマ：西安事変と西北問題善後処理－“調停者”と“謀主”の二役を演じた周恩来・中共中央

②日 時：2012年9月29日(土)15時～18時

参加者：15名

報告者(1)：嶋亜弥子

テーマ：農村女性リーダーへの職業訓練の展開－北京市实用技能訓練学校の事例－

報告者(2)：岡崎邦彦

テーマ：1972年対日国交正常化を巡る中国の対外関係と内政－「キッシンジャー回想録」を検討する

報告者(3)：近藤邦康

テーマ：1972年中米関係・日中関係と今日の日中対立－第3回世界漢学(Sinology)大会(北京)のための報告原稿(資料：中国近代思想史と今天的世界)

③日 時：2012年10月27日(土)14時30分～18時

参加者：12名

報告者(1)：上野英詞

テーマ：南シナ海を巡るパワーゲーム

報告者(2)：中島宏

テーマ：北東アジアの動向－1972年日中国交交渉の回想と最近の日中関係、最近の北朝鮮見聞

④日 時：2012年12月22日(土)13時～16時

参加者：12名

報告者：伊藤一彦

テーマ：キム・ジョンウン体制と中朝関係

※なお、小島麗逸大東文化大学名誉教授主催の「中国経済研究会」(毎月1回、大東文化会館)へ、研究班研究員が参加しております。

【刊行物等】

書 名：混迷の東アジア海洋圏

－新たな海洋秩序構築へ向けて－
執筆者：海洋政策研究財団編、上野英詞他
出版社等：海洋政策研究財団発行(2013年3月)

■4班 = 昭和社會經濟史の総合的研究

【研究会】

日 時：2012年8月10日(金)14時～17時

場 所：板橋校舎5階ワーキングルームⅡ

参加者：石井寛治・兵頭徹・小湊浩二・大杉由香・片岡泰彦・岡村與子・佐賀香織

発表者(1)：小湊浩二

テーマ：戦後の公的職業訓練制度の確立とその諸問題(2)

－炭鉱離職者と職業紹介・職業訓練－

発表者(2)：大杉由香

テーマ：地域再興と食の安全をどう考えるか

－福島・宮城視察(2012.8.3～8.5)を通して見えてきた原発事故後の問題点－

■5班 = 日中文学の比較文学的研究

－「藝文類聚」を中心にして－

【研究会】

場 所：東洋研究所共同研究室

日 時：2012年－4/28,6/2,23,7/28,9/1,22,10/27,12/1,22

2013年－1/26,2/27,3/30

人 数：5名－7/28,10/27,12/1,1/26,2/27

6名－4/28,6/2,23,9/1,12/22,3/30

7名－9/22

担当者：芦川敏彦(巻86・87)－4/28,6/2,23,2/27,3/30

河井義樹(巻87)－7/28,9/1

関清孝(巻87)－9/1,22,10/27,12/1

福田俊昭(巻87)－12/22,1/26

【刊行物】

「藝文類聚」(巻86)訓読付索引(2013年3月19日刊行)

■6班 = 大西洋世界とインド洋＝太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考

【研究会】

①日 時：2012年7月28日(土)12時～15時

場 所：池袋橙屋

参加者：生田滋・山田準・滝口明子・齋藤俊輔 4名

内 容：各自担当地域の研究情報の交換及び来年度に向けての研究計画。

②日 時：2013年1月17日(火)10時30分～15時

場 所：東洋研究所山田研究室

参加者：山田準・齋藤俊輔 2名

内 容：三菱財団研究助成金応募と研究文献、資料調査の打ち合わせ。

③日 時：2013年2月16日(土)15時～16時

場 所：大東会館4階研究室

参加者：山田準・滝口明子・齋藤俊輔 3名

内 容：出版計画および資料調査の打ち合わせ。

【調査】

日 程：2013年3月16日～18日

場 所：滋賀県長浜市国友鉄砲の里資料館・長浜城歴史博物館・近江八幡市安土城跡

出張者：齋藤俊輔

目 的：資料調査

成果：ポルトガル人から種子島に伝来した鉄砲のその後の日本での普及、製造で特に次郎助のネジの開発が大量生産に結びつき、国友鉄砲鍛冶の活躍を知ることができた。

■7班 = 唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）

【研究会】

場所：東洋研究所共同研究室

日時：2012年4/14,5/12,6/9,7/14,9/15,10/13,11/16,12/8

2013年1/12,2/9

発表者：(1)濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代語訳、語釈・参考文献の原案作成4/14～11/16

(2)『天文要録』第一冊（巻1）購読、訳注原稿を全員で推敲12/8～2/9

テーマ：(1)『天文要録』第二冊（巻4）の訳注原稿の作成4/14～1/12

(2)『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の推敲2/9

内容：『天文要録』の考察

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）

5名4/14、4名5/12～11/16

6名12/8～2/9

その他：田中良明氏は大東文化大学大学院出身者として、大兼寛健氏は同博士後期課程在学学生として自主参加（以下同様）

■8班 = 和漢比較文学の研究一

『古金石逸文』を中心にして一

■9班 = 茶の湯と座の文芸

【研究会】

日時：2012年4/10（年間予定確認）,17,24,5/8,15,22,29,6/5,12,26,7/3,10,17,24,9/25,10/2,9,16,30,11/6,13,20,27,12/4,11,18,2013年1/8,15,22,2/23,24,3/1,5,7

場所：大東文化大学1058教室・蔵中しのぶ研究室
参加人数：20名（1）～27、安保・学生2名28

安保・学生1名29、蔵中・学生10名30～34

発表者：蔵中（4/17～5/15）、安保（5/22～6/5,12/4）、相田（6/12,26）・谷（7/3～9/25）、濱田・鈴木（10/2,16）、濱田（10/9）、鈴木（10/30）安保（鈴木）（11/6）、安保（三田）（11/13）、三田（11/20）、安保（蔵中）（11/27）、（12/11～1/8）安保（12/4）

テーマ：池田炭之事（4/17～5/15）・炭斗之事（5/22～6/5）、灰継灰救因（6/12,26）炭斗之中置合事、火箸鳥箒之（7/3～9/25）囲炉裏之事、炉中下火之事（10/2,16）、炉中下火之事（10/30～11/6）、輪口・姥口釜居様之事（11/13,20）、五徳之事、炉中灰之事（11/27）五徳之事（12/11）、五徳之事、巻ノ五茶譜目録、炉中灰之事（12/18～1/8）

内容：校勘及び本文訓読、語釈、原稿の総ページ数の見積り、原稿縮切り、校正

【刊行物等】『茶譜』巻五注釈2013年3月21日刊行

■10班 = 『晉書』の研究

【刊行物等】

①書名：『晉書校補 帝紀（一）』

執筆：渡邊義浩・高橋康浩（編）

発行社等：大東文化大学 東洋研究所（2013年3月、277ページ）

②書名：『全譯後漢書 祭祀志』

執筆：渡邊義浩・池田雅典

発行社等：汲古書院（2013年9月、195ページ）

③書名：『全譯後漢書 五行志』

執筆：渡邊義浩・高山大毅・平澤歩（編）

発行社等：汲古書院（2013年12月、310ページ）

■11班 = イラン文化圏における伝統と変容の研究 ーフィールド調査資料の再考ー

【研究会】

①日時：2012年4月15日（日）13時～17時

場所：大東文化会館

参加者：原隆一・山田準・吉田雄介・南里浩子・鈴木珠里・林裕（上岡弘二）7名

発表者：上岡弘二（東京外国語大学名誉教授）

テーマ：日本人のイラン研究をめぐってー私見・偏見・謬見ー

②日時：2012年6月10日（日）13時～17時

場所：大東文化会館

参加者：原隆一・吉田雄介・南里浩子・鈴木珠里・林裕 5名

発表者(1)：林裕

テーマ：アフガニスタン農村部における政治社会構造ー元戦闘員からの聞き取り調査に基づいた考察ー

発表者(2)：鈴木珠里

テーマ：「フォルグ・ファッロフザードの生涯と作品」

発表者(3)：吉田雄介

テーマ：ズイールー（綿絨毯）生産の伝承と歴史ーヤズド州メイボドの職人からの聞き取り調査からー

③日時：2012年7月8日（日）13時～17時

場所：大東文化会館

参加者：原隆一・吉田雄介・南里浩子・鈴木珠里 4名

発表者(1)：南里浩子

テーマ：イラン南部農村の40年の変化ーマルヴダシュト谷平原のH村とP村の比較ー

発表者(2)：原隆一

テーマ：「イラン・ザグロス山地コル川流域地方の40年の社会変容調査の再考」

④日時：2012年10月8日（日）13時～15時

場所：大東文化会館

参加者：原隆一・南里浩子 2名

発表者(1)：林裕

テーマ：アフガニスタン・カーブル州北方郡部における地方ガバナンスー現地調査報告ー

⑤日時：2012年11月18日（日）13時～17時

場所：大東文化会館

参加者：原隆一・吉田雄介・南里浩子・鈴木珠里・石井啓一郎・中村菜穂・上岡弘二 7名

発表者(1)：石井啓一郎

テーマ：イラン・トルコにおける社会への文学的言説の考察と問題提起ー20世紀前半から中庸に着目してー

発表者(2)：鈴木珠里

テーマ：言葉紡ぐ女たちー現代イランに生きた女性

詩人たちー
 発表者(3): 中村菜穂
 テーマ: ジャーレ著『古鏡の沈黙』をめぐって

■ 12 班 = 岡倉天心 (覚三) についての「伝統と近代」

【研究会】

- ①日 時: 2012年6月9日(土)
 場 所: 奈良・浄教寺
 「岡倉天心研究会・鵬の会」に参加
 講演会: 山口静一氏(埼玉大学名誉教授)「仏教徒になったフェノロサとピゲロウ」(奈良遷都1300年祭の行事の継続企画としての公開講演会に参加)
- ②日 時: 2012年6月10日(日)
 場 所: 大津・楽浪文化財修理所見学(高橋利明所長による文化財修理所の説明と修理所見学)
 参加者: 田辺清・宮瀧交二・篠永宣孝・池田久代・

- 岡倉登志・岡本佳子・川島一穂・依田徹
- ③日 時: 2013年3月2日(土)
 場 所: 大東文化会館 K401/402 室
 参加者: 宮瀧交二・池田久代・川島一穂・依田徹
 講演会: 鵬の会、(財)宮本記念財団と共催「岡倉天心生誕150年・没後100年記念講演会」
 講 演: 立教女学院短大名誉教授 宮本瑞夫氏の記念並びに岡本佳子、田辺清、岡倉登志研究員による講演
 参加者: 宮瀧交二・池田久代・川島一穂・依田徹

【調査】

- 日 時: 2012年9月2日(日)
 場 所: 福井・西超勝寺(岡倉家菩提寺)
 出張者: 宮瀧交二・篠永宣孝・岡倉登志
 目 的: 「天心99回忌」
 成果・その他: 地元の天心顕彰会メンバーと懇談＝ヒアリング

「アジアの民族と文化」 東洋研究所公開講座のお知らせ

日程・テーマ・講師	講義概要
11月7日(木) 13:00～15:00 東アジアの一員としての 中国、日本、韓国朝鮮の歴史と文化 ～東アジアの「外」(オランダ)で 改めて実感したこと～ 大東文化大学東洋研究所准教授 小林 春樹	今まで発表者は、東アジア各国の国家、国民、そしてその文化が広義には世界の、狭義には東アジア世界の歴史の中で形成され発展してきたものであることを前提として、専門である中国の歴史を研究してきたつもりでした。しかし、実際には中国の古典文、すなわち漢文だけを史料とし、しかも、いわゆる中華思想(中国を中心に据えた世界観)を根本として中国と東アジア世界とその歴史を観てきたことを、短期間ながらオランダのライデン大学で過ごした経験によって気づきました。今回は、個人的体験にもとづいてですが中、日、韓三国の言語を習得をしたうえで東アジア三国の歴史を優劣なく、三位一体のものとして考察するというライデン大学の「東亜学」の伝統から私が学んだことや考えたことについてお話しします。なお東アジアとはことなるオランダ独特の文化などについての軽い話題についても後半でお話したいと思っています。
11月14日(木) 13:00～15:00 民俗学者・宮本馨太郎とその映像記録 ー台湾高雄・パイワン族の暮らし (昭和12年撮影)ー 東洋研究所兼任研究員 大東文化大学文学部准教授 宮瀧 交二	文化財保護法や博物館法制定の立役者であった立教大学名誉教授・宮本馨太郎(1911～1979)は、渋沢敬三の設立したアチック・ミュージアムの主要メンバーとして、日本民俗学とりわけ民具学の構築に尽力した民俗学者である。この宮本が、昭和初期、他の民俗学者に先駆けて16ミリフィルムによる民俗記録映像を数多く撮影していたことは、近年高く評価されているところであるが、今回の講義では、昭和12(1937)年撮影された台湾高雄・パイワン族の貴重な映像を御紹介したい。
11月21日(木) 13:00～15:00 ヨーロッパにおける 茶文化の誕生と女性たち 東洋研究所兼任研究員 大東文化大学国際関係学部准教授 滝口 明子	茶は「アジア発の世界飲料」と呼ばれます。中国や日本でも古くから親しまれ、生活に欠かせない飲み物となってきました。 17世紀にヨーロッパへ伝わった「アジアの葉」は、どのように受け入れられ、浸透し、定着していったのでしょうか。ヨーロッパの茶文化は、アジアの茶文化と比べてどんな特色を持っているのでしょうか。 本講では絵画と詩文を手がかりに、女性の日常生活に注目しながら、ヨーロッパ茶文化の誕生とその特色について考えてみたいと思います。

■ 会 場: 大東文化会館 3階 K-0302 研修室

■ 交 通: 東武東上線「東武練馬駅」下車徒歩3分

■ 事前の申込が必要です。お問い合わせは東洋研究所事務室までお願いいたします。

人事・名簿

■人事

東洋研究所専任講師に委嘱

田中 良明 (2013年4月1日付)

兼任研究員に委嘱

【新任】葛目 知秀・高安 雄一・須田 俊彦・鹿 錫俊
(期間：2013年4月1日～2015年3月31日)

兼任研究員に委嘱

【新任】鎧屋 一・齊藤 正道・関 清孝・福田 俊昭・
松本 照敬・渡邊 義浩
(期間：2013年4月1日～2015年3月31日)

東洋研究所事務室に異動

山本 彰 特別契約職員 (2013年4月1日付)

■名簿

東洋研究所管理委員会委員 (7名)

山田 準 (所長・専任研究員)
岡崎 邦彦 (兼任研究員)
中林 史朗 (兼任研究員)
篠永 宣孝 (兼任研究員)
田辺 清 (兼任研究員)
原 隆一 (兼任研究員)

所長・専任研究員 (5名 ※ 内1名は歴史資料館出向)

所長

山田 準 教授 (東西交渉史・貿易史)

研究員

岡崎 邦彦 准教授 (中国政治経済)
小林 春樹 准教授 (東洋歴史学)
田中 良明 専任講師 (中国思想史)
浅沼 薫奈 特任講師 (※ 歴史資料館出向)

事務室 (2名)

事務長 福田 八重子
特別契約 山本 彰

兼任研究員 (23名)

日吉 盛幸 (文・日本文学科 教授)
浜口 俊裕 (文・日本文学科 准教授)
中林 史朗 (文・中国学科 教授)
村井 信幸 (文・中国学科 准教授)
高橋 康浩 (文・中国学科 特任講師)
宮瀧 文二 (文・英米文学科 准教授)
葛目 知秀 (文・英米文学科 講師)
篠永 宣孝 (経・社会経済学科 教授)
高安 雄一 (経・社会経済学科 教授)
藏中 しのぶ (外・日本語学科 教授)
齊藤 哲郎 (法・政治学科 教授)
中村 昭雄 (法・政治学科 教授)
武田 知己 (法・政治学科 教授)
内田 知行 (国・国際関係学科 教授)
柴田 善雅 (国・国際関係学科 教授)
滝口 明子 (国・国際関係学科 准教授)
須田 俊彦 (国・国際関係学科 准教授)
田辺 清 (国・国際文化学科 教授)

井上 貴子 (国・国際文化学科 教授)
原 隆一 (国・国際文化学科 教授)
鹿 錫俊 (国・国際文化学科 教授)
大杉 由香 (環・環境創造学科 教授)
小湊 浩二 (環・環境創造学科 講師)

兼任研究員 (41名)

相田 満 (国文学研究資料館 准教授)
芦川 敏彦 (浜松学芸中・高等学校非常勤教諭)
鎧屋 一 (目白大学外国学部 教授)
安保 博史 (群馬県立女子大学 教授)
池田 久代 (皇學館大学 教授)
池田 雅典 (埼玉県立所沢高等学校非常勤講師)
石井 寛治 (東京大学 名誉教授)
石井 仁 (駒澤大学 准教授)
伊藤 一彦 (中国研究所理事)
上野 英詞 (海洋政策研究財団調査役)
植松 希久磨 (大東文化大学非常勤講師)
岡倉 登志 (大東文化大学 名誉教授)
岡本 佳子 (国際基督教大学 准研究員)
片岡 弘次 (大東文化大学 名誉教授)
川端 一穂 (大阪芸術大学短期大学部 教授)
小坂 眞二 (陰陽道研究者)
小林 聡 (埼玉大学 教授)
小林 龍彦 (前橋工科大学 教授)
近藤 正則 (岐阜女子大学 教授)
齊藤 正道 (東京外国語大学非常勤講師)
齋藤 俊輔 (日伯学園日本語教師)
嶋 亜弥子 (日本福祉大学非常勤講師)
鈴木 珠里 (大東文化大学非常勤講師)
関 清孝 (伊奈学園総合高等学校教諭)
仙石 知子 (日本学術振興会特別研究員)
中村 聡 (玉川大学 教授)
中村 士 (帝京平成大学 教授)
成田 守 (大東文化大学 名誉教授)
南里 浩子 (東京国際大学非常勤講師)
林 裕 (国際協力機構南アジア部)
福田 俊昭 (大東文化大学 名誉教授)
細井 浩志 (活水女子大学 教授)
堀池 信夫 (筑波大学 名誉教授)
町田 隆吉 (桜美林大学 教授)
松本 照敬 (大東文化大学 名誉教授)
矢ヶ崎 善太郎 (京都工芸繊維大学 准教授)
山下 克明 (国際日本文化研究センター共同研究員)
由川 稔 (ベネフル総合研究所企画部マネージャー)
吉田 雄介 (関西大学非常勤講師)
依田 徹 (大宮盆栽美術館学芸員)
渡邊 義浩 (早稲田大学 教授)

特別兼任研究員 (7名)

安藤 正士 (筑波大学 名誉教授)
生田 滋 (大東文化大学 名誉教授)
小島 麗逸 (大東文化大学 名誉教授)
近藤 邦康 (東京大学 名誉教授)
進藤 英幸 (無窮会東洋文化研究所所長)
中島 宏 (中国研究所研究員)
濱 久雄 (無窮会専門図書館長)

【訃報】

兵頭徹東洋研究所専任教授(歴史資料館出向中)は、2013年3月25日にご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。

2012年度 東洋研究所会議報告

■管理委員会

- ①日時：2012年5月12日(土) 10:30～
場所：東洋研究所共同研究室
(議案)
1. 平成24年度東洋研究所名簿・共同研究一覧について
 2. 東洋研究所予算に関する事項について
 3. 2012年度 東洋研究所公開講座の実施について
 4. 2012年度 東洋研究所出版計画について
 5. 海外研究機関(吉林師範大学)との交流について
 6. 2013年度 東洋研究所の事業計画に関する事項について
 7. 東洋研究所研究員の人事に関する事項について
- ②日時：2012年11月1日(木) 10:30～
場所：東洋研究所共同研究室
(議案)
1. 2012年度公開講座の実施について
 2. 東洋研究所刊行物の発行状況について
 3. 2013年度共同研究計画書(案)について
 4. 東洋研究所専任研究員の人事について
 5. 東洋研究所管理委員会委員の推薦について
 6. 東洋研究所研究員の人事について
 7. 2013年度兼担依頼について
 8. 2013年予算積算について
 9. 2013年度東洋研究所刊行物の企画について
 10. 2012年度研究総会、国際交流(講演会)の実施について

- ③日時：2012年12月18日(月)
場所：持回り
1. 2013年度東洋研究所の人事(専任研究員採用)について
 2. 2013年度大学専任教職員海外研究員の申込について
 3. 兼担・兼任・特別兼任研究員委嘱依頼への回答について
- ④日時：2013年2月16日(土) 13:00～
場所：大東文化会館K-0403
(議案)
1. 東洋研究所刊行物の発行状況について
 2. 2013年度共同研究計画書(案)について
 3. 研究員総会および国際交流講演会について
 4. 2012年度自己点検・評価改善方策実施計画書・経過報告書の作成について
 5. 東洋研究所専任研究員(講師)の採用人事について
 6. 東洋研究所専任研究員の兼担依頼について

■所内会議

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 4月14日(木) 10:00～ | ⑥ 10月16日(火) 10:00～ |
| ② 5月10日(木) 10:00～ | ⑦ 11月13日(火) 10:00～ |
| ③ 6月14日(木) 10:00～ | ⑧ 12月13日(木) 10:00～ |
| ④ 7月12日(木) 10:00～ | ⑨ 1月10日(木) 10:00～ |
| ⑤ 9月27日(木) 10:00～ | ⑩ 2月14日(木) 10:00～ |

■共同研究部会主任会議

2012年度発行「東洋研究」

- 東洋研究 第184号(2012年7月25日発行)
福田 俊昭…『朝野僉載』に見える嘲嗤説話(後編)
堀池 信夫…『中国自然神学論』の「鬼学」—ライブニッツの朱子解釈—
相田 満 …国文学(日本文学)研究におけるデジタル地名辞書の活用の可能性
松本 照敬…ラーマヌジャ思想の研究(9)
- 東洋研究 第185号(2012年11月26日発行)
篠永 宣孝…ロシア革命後の露西亞銀行再建の挫折、1917～1926年
滝口 明子…欧米茶書の中の東洋—ポンテクー『茶論』研究—
齋藤 俊輔…ポルトガル領インドとビルマのポルトガル人傭兵—ディオゴ・ソアレス・デ・メロの事例を中心に—
林 裕 …アフガニスタン農村における現状と意思決定構造
柴田 善雅…南洋興発株式会社との関係会社投資
- 東洋研究 第186号(2012年12月25日発行)
小坂 眞二…十二世紀代の怪異六壬式占文について(二)
山下 克明…院政期の大将軍信仰と大将軍堂
濱 久雄…明代における来知徳の易学とその影響
中村 士 …蛮書和解御用の創設とその後の天文方
中村 聡 …福澤論吉と排耶蘇教問題
- 東洋研究 第187号(2013年1月25日発行)
小林 春樹…『漢書』「五行志」における董仲舒の役割
武田 知己…外務省と知識人1944—1945(2・完)—「ジャポニカス」工作と「3年会」—
岡崎 邦彦…管見「日中国交正常化40周年」—日中国交正常化とその後日中間の諸問題—
嶋 亜弥子…農村女性リーダーへの職業訓練の展開—北京市実用技能訓練学校の事例—
大杉 由香…戦前日本における災害の実態—全国統計を通して見えてきた生存の問題—
小湊 浩二…戦後の公的職業訓練制度の確立とその諸問題(2)—炭鉱離職者と職業紹介・職業訓練—



『藝文類聚』(巻86) 訓読付索引
大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班 代表 福田 俊昭
2013年3月19日発行／B5判 136頁／ISBN 978-4-904626-12-2／頒価¥5,000(税別)

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。本書はその『藝文類聚』を巻ごとに訓読文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に利用者の便を考えて重要語彙索引を掲載したものである。

巻86は、「菓部上」の李 桃 梅 梨 甘 橘 櫻桃 石榴 柿 榎 柰 李 桃 梅 梨 甘 橘 櫻桃 石榴 柿 榎 柰 を収録している。

〈既刊〉巻1～巻16、巻80～巻85



『茶譜』巻5 注釈
藏中 しのぶ・福田 俊昭・相田 満・安保 博史・矢ヶ崎 善太郎共著
2013年3月21日発行／B5判 353頁／ISBN 978-4-904626-13-9／頒価¥9,000(税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661～1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

〈既刊〉巻1～巻4



『晉書校補』帝紀(一)
渡邊 義浩・高橋 康浩 編集
2013年3月10日発行／A5判 277頁／ISBN978-4-904626-11-5／頒価¥5,000(税別)

二十四史の一つに数えられている『晉書』は、唐代の編纂にかかるもので、史料的に偏向が多いと言われている。『晉書校補』は、『晉書』の史料論的研究の基礎を構築するため、『晉書附注』および『十八家晉書』や『資治通鑑』を利用することにより、校補本の『晉書』を作成したものである。

この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■汲古書院

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-5-4
TEL (03) 3265-9764

■池上書店(大東文化大学板橋校舎内)

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
TEL (03) 3932-7567

■進明堂(大東文化大学東松山校舎内)

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
TEL (0493) 34-4430

大東文化大学東洋研究所所報 No.59

2013年6月30日発行

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>

印刷 (株)東京技術協会